

記念館新聞



福崎町立
柳田國男・松岡家記念館
〒679-2204
神崎郡福崎町西田原
1038の12
電話：0790-22-1000

てるおとすいきゆう

柳田國男の弟で、大和絵を復興させた画家である松岡映丘。「映丘」という名前は大和絵を描く際の雅号であり、本名は輝夫てるおといひます。現在では輝夫より映丘のほうがより知名度があり、一般的にも松岡映丘と呼び親しんでいます。さて、雅号である「映丘」をみなさんはどのよ



映丘画『唐詩選』映丘9歳頃の絵

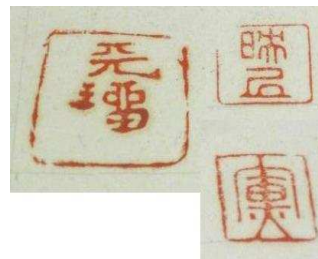
うに読んでいますか？初めて見た方は少し迷うかも知れません。一方で、ご存知の方は大抵、「えいきゆう」と読んでいることかと思ひます。もしこれがテストであれば文句なしの正解です。しかしもうひとつ、別の読み方があるのをご存知ですか？それは「てるお」です。実は本名と同じ読み方なのです。もともと「映丘」という雅号は映丘自身が付けたものではありませぬ。兄・井上通泰がある古い文学から名付けたものなのです。その古い文学と

は『日本書紀』で、一節に「二つの丘、二つの谷の間に映り」とあり、ここから本名の輝夫てるおにちなみ「映丘」と名付けたのです。

夏の夜嘶

8月6・7日にこゝ記念館周辺にて民俗辻広場まつりが開催されます。当日、当館では小栗栖真弓さんによるおはなし会「夏の夜嘶」を夜の7時半頃より予定しています。これにあわせ、記念館では少しでも怪談の雰囲気味わっていただくため、妖怪展

本当は「てるお」と読ませるつもりであったが、「えいきゆう」で有名になってしまったため、そのままにしていたのです。



映丘の落款

示を計画しています。当日は凶書館より数人(匹?)の妖怪をお招きし、夜嘶の雰囲気盛り上げてくれるでしょう。ところで妖怪といえは水木しげる氏の『ゲゲゲの鬼太郎』が有名ですが、柳田國男も妖怪の研究をしています。その研究成果の一つが著書『妖怪談義』です。『妖怪談義』はさまざまな妖怪伝承について考

サルビア田園アート

もちむぎのやかた北側にある農地に町制55周年を記念し、町花「サルビア」を植えて「町章」と「55」の文字を形どる「サルビア田園アート」が6月25日と7月2日の2日間にかけて実施されました。

両日とも100名以上の

察されたもので、70以上の妖怪について解説が加えられています。妖怪展示ではこの本にも少し触れたいと思います。

辻広場まつりは15時より開催されています。家族友達とご一緒のご来場をお待ちしております。



河童だよ！

参加者が畑一面にサルビアの移植を行いました。このサルビアは8月6日、7日の「柳田國男50年祭」開催頃に満開を迎えるそうです。



記念閑話

6月中頃より記念館では福崎町のゆるキャラ「フクちゃん」「サキちゃん」をあしらったタオルを販売しています。このタオルはイベント時に販売されるのみで、常時購入できるのは記念館以外まだないようです。早い者勝ちです！お急ぎを！